



TITLE:

王夫之ノ經濟思想

AUTHOR(S):

小島, 祐馬

CITATION:

小島, 祐馬. 王夫之ノ經濟思想. 經濟論叢 1918, 7(3): 353-365

ISSUE DATE:

1918-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/127431>

RIGHT:

王夫之ノ經濟思想

小島祐馬

一

王夫之字ハ而農、號ハ薑齋、明朝亡ビテ湘西ノ石船山ニ隱居セルヨリ、學者又船山先生ト呼ン
グ。先世ハ揚州高郵ノ人デ、明ノ永樂ノ初ニ衡州ニ官スル者アリ、遂ニ移ツテ衡州衡陽ノ人トナ
ル。代々軍功ヲ以ツテ顯ハレタ家柄デ、父武夷ニ至ツテ始メテ文學ヲ以テ知ラルルヤウニナツ
タ。夫之ハ即チ武夷ノ季子デアル。其生レタノハ明ノ萬曆四十七年¹⁾ノ九月一日デ、今年ハ即チ其
生誕三百年目ニ相當スルノデアル。夫之ハ二十四歳ノ時崇禎壬午ノ鄉試ニ舉ゲラレテ舉人ト爲リ
次イデ會試ニ赴ク筈デアツタガ兵亂ノ爲メニ道梗リテ遂ニ果サナカツタ。其翌年流賊張獻忠衡州
ヲ陷レ僞官ヲ設ケテ夫之ヲ招イタ。夫之走ツテ南嶽ノ下ニ匿レタガ、賊其父ヲ執ヘテ質トスルニ
及ビ、夫之刀ヲ引キ自ラ其肢體ヲ刺シ、昇ガレ往キテ父ニ易ラントシタ。賊其創ヲ見テ之ヲ免シ
父子俱ニ脱スルコトヲ得タイフコトデアル。李自成ガ北京ヲ陷レ懷宗社稷ニ殉ジタ時ハ、夫之
涕泣シテ食ハザルモノ數日、悲憤ノ詩一百韻ヲ作り且吟ジ且哭シタ。明ノ大學士瞿式耜等永明王
ヲ奉ジテ明朝ノ恢復ヲ圖ルヤ、式耜夫之ヲ疏薦シテ行人司行人ノ官ニ就ケタ。會母ノ病ヲ聞キ間
道ヨリ衡州ニ歸ツタガ、至レバ母ハ已ニ歿シテ居タノデ當分軍ニ從フコトガ出來ナクナツタ。其

1) 西曆 1619 A. D.

後瞿式耜ハ桂林ニテ節ニ殉ジテ恢復ノ事業ハ敗レ、夫之モ勢ノ愈爲スベカラザルヲ知ツテ遂ニ林泉ニ隱遁スルコトニ決心シタ、ソレヨリ後四十年ノ間ハ専ラ學問著述ニ從事シテ敢テ世ニ出デズ、清ノ康熙三十一年一月二日、七十四歳ヲ以ツテ終ツタ。其死スルヤ白ラ其墓ニ題シテ明遺臣王夫之之墓ト曰ヒ、二朝ニ仕ヘザルノ心事ヲ明白ニシタノデアツタ。其學問ハ經史ニ博通シ、傍子集ヲモ兼修シテ居ルガ、中ニモ張橫渠『正蒙』ノ說ニ神契スル所アリ、演ベテ『思問錄』内外二篇ヲ作ツテ居ル。其思想ノ淵源ハ實ニココニ原本スルモノト觀ルベキヤウデアアル。其學問思想ハ長ク世ニ出デナカツタノデアアルガ、近時ニ至リ漸ク顯著トナリ。舊國藩ヲ始メ湖南地方ノ人士ニハ餘程感化ヲ與ヘタモノデアアル。著書亦甚多イ。然シ夫之ハ家貧ニシテ、其書ヲ著ハスニ筆紙ハ多ク故友又ハ門人ヨリ供給ヲ受ケ、書成ルヤ之ヲ授ケテ自ラ收メナカツタガ爲メニ、其家ニ藏スル者ハ『思問錄』外二三部ノモノニ過ギナカツタト云フ。夫之歿後約百五十年、道光十九年ニ其裔孫王世全始メテ遺書百五十卷ヲ收輯シテ刊刻シタガ、咸豐四年長髮賊湘潭ヲ犯スニ及ビ板本スベテ灰燼ニ歸シタ。同治元年同郷ノ曾國荃之ヲ重刊センコトヲ謀リ、更ニ百七十二卷ヲ增益シテ同四年ニ完成出版シタノガ、即チ現今通行ノ『船山遺書』デアアル。其中デ夫之ノ政治經濟思想ヲ窺フニ足ルベキモノハ『讀通鑑論』三十卷『宋論』十五卷『驅夢』一卷『黃書』一卷等アリ。就中『驅夢』『黃書』ハ黃宗羲ノ『明夷待訪錄』ト相出入スルノ書ト稱セラレテ居ルガ、併シ『明夷待訪錄』ノ如ク民本主義ヲ高調シタモノト速斷シタナラバ誤デアアル。其言フ所政治ノ根本論ヨリモ寧ロ個々ノ施設又ハ組織ニ就イテ意見ヲ述ベタモノデアツテ、制度ヤ歴史ヲ知ラザル者ガ讀ンデハ了解シ難キモノガ

多カラウ。其著書が最近ニ革命家ノ間ニ推賞セラルルコトトナツタ理由ハ、蓋『讀通鑑論』『宋論』等ニ筆鋒鋭ク夷狄ヲ攻撃セル點ガ、清朝ニ反感ヲ有スル者ノ喜ブ所トナツタガ爲メデアラウ。若シ夫之ガ臨終ノ際ニ吾著書ハ二百年ノ後デナイト世ニ行ハレナイト言ヒ、子孫ガ其遺訓ヲ守ツテ其刊行ヲ見合セタトイフ傳説ヲ事實ナリトスレバ、ソハ恐ラク其夷狄論ニ於イテ反清朝ノ思想ヲ暴露シテアルガ爲メデアラウ。以下此等ノ著述ノ中ニ就キテ夫之ノ經濟思想ヲ述ベテ見ヤウト思フノデアアルガ、餘リ特色ノナキ部分ハスベテ除キ去ツテ、今ハ唯其分配政策ニ關スル意見ノ二三ヲ紹介スルニ止メヤウト思フ。

『船山遺書』ノ内容ハ『周易內傳發例』『周易大象解』『周易稗疏』『周易攷異』『周易外傳』『書經稗疏』『尙書引義』『詩經稗疏』『詩經攷異』『叶韻辨』『詩廣傳』『禮記章句』『春秋家說』『春秋稗疏』『春秋世論』『續春秋左氏傳傳義』『四書稗疏』『四書攷異』『讀四書大全說』『說文廣義』『讀通鑑論』『宋論』『遜庵志』『張子正蒙註』『思間錄』『內外篇侯解』『噩夢』『黃書』『識小錄』『老子衍』『莊子解』『莊子通』『愚鼓辭』『楚辭通釋』『章齊文集』等已列五十七部アリ。此外ニ未刻未見二十一部其中主ナルモノハ『尙書攷異』『四書訓義』『四書詳解』『水磨實錄』『近思錄釋』『呂氏釋』『淮南子註』『撒官問』『龍源夜話』『相宗絡索』『夕堂永日八代文選評』『八代詩選評』『四唐詩選評』『明詩選評』等アル。猶其名ヲ佚スル者モ數十種ニ上ルト云フ。

二

王夫之ガ貧富ヲ均シクスル善術ト考ヘタ主要ナル政策ハ、田ヲ度リテ租ヲ收ムルノ制ヲ罷メテ人ヲ度リテ租ヲ收ムルノ制ヲ立ツルニ在リトスルノデアアル。其說ニ曰ハク『民ノ生ヤ粟ヨリ重キハ無ク、其生ヲ遂グル者農ヨリ重キハ莫シ。商賈ハ王者ノ必ズ抑フル所、游惰ハ王者ノ必ズ禁ズ

ル所ナリ。然ルニ之ヲ抑フルモ且ツ張り、之ヲ禁ズルモ且ツ偷ムニ至ツテハ、王者亦民ヲ如何トモスルナシ。然ルニ唯民ヲ度ツテ以ツテ其租ヲ收メ、其田ヲ度ラズ、一戸ノ租若干又ハ一國ノ租若干トシ、餘力アツテ耕地廣ク、餘勤アツテ粟ヲ獲ルコト多キ者ニ對シテ、租稅ヲ取り盈ツルコトナク、蠲廢シテ地ヲ棄ツル者ニ對シテ、租稅ヲ蠲減スル所無カラシメバ、民乃チ益其土ヲ珍トシテ農ニ競フコトトナル。是レ彊豪兼并ノ世ニ在リテ尤便ナリ。田已ニ去ルトモ租除カズトスレバ、誰カ敢テ先疇ヲ以テ有力者ノ兼并ニ委センヤ。人各其口分ノ業ヲ保チ、人各稼穡ノ事ニ勸マバ、彊豪ノ者又惡ゾ從ツテ之ヲ奪ハンヤ。則チ人ヲ度リテ田ヲ度ラザルハ、農ヲ勸メテ以テ貧富ヲ均シクスルノ善術、利久長ニ在リテ民皆自得ス。此ヲ之レ民制ヲ定ムルト謂ノナリ⁽²⁾ト。是レ租稅ヲ課スルニ當リ其人ヲ舍テテ田ニ從フコトトシ、民耕サザレバ賦役及バザルコトトスレバ、租稅ヲ免レンガ爲メニ商賈遊民トナル者ヲ生ジ、其結果ハ彊豪ノ土地兼并ト爲ル。耕ス者虐取ノ憂ナク、耕サザル者幸ニ逃ルルノ利ナクンバ、田ハ有利無害ノ資ト爲リ、自ラ彊豪ニ折入セズトスルノデアル。其說徵稅法ニヨツテ牽制スル外、自由競爭ニ放任シテ差支ナシトスルモノノ如クナルモ、而モ是レニハ土地ノ均分トイフコトガ其前提トナツテ居ルトイフコトヲ知ラネバナラス。ソレハ獨リ理論上當然スクアルベキノミナラズ、既ニ前文ニモ人各「口分ノ業」ヲ保ツト謂ツテ居リ、又彼ガ唐ノ租庸調ノ徵稅法ヲ稱揚セル所ヨリ察スルモ、唐ノ如ク人民ガ當初スベテ均分サレタル口分世業ノ田ヲ占有セルモノトシテ立論セルモノト見ナクレバナラス。其歷代ノ限田均田ノ政策ヲ非難セルハ、蓋シ彼ノ言フガ如キ徵稅法ニ着眼セズシテ、徒ラニ土地ノ均分ヲ策スルモ無

2) 『讀通鑑論』卷七

3) 『讀通鑑論』卷十一

4) 同卷二、同卷十、『宋論』卷十二

效ニ終ルト爲スモノデアラウ。

尤夫之ガ課税ノ標準ヲ田ニ置カズシテ人ニ置クベシトスルノハ、單ニ農ヲ獎勵シ貧富ヲ平均セシムル所以ナリトナスガ爲メノミデナク、猶他ニ一ツノ理由ガアル。ソハ元來土地ハ租税ヲ負擔スベキモノニ非ズシテ、人ガ租税ヲ負擔スベキモノデアルトイフ根據デアル。彼ハ先ヅ王者能ク天下ノ人ヲ臣トスルモ、天下ノ土ヲ擅ニスル能ハズトイフコトヲ述ベテ、『地ノ擅ニ一人ノ有ト爲スベカラザルハ猶天ト同ジ、天分ツベキナク地割ルベキナシ。王者ハ天ノ子タリト雖、豈天地ヲ私シ、敢テ天地固有ノ博厚ヲ貪リ、割裂シテ己ガ土ト爲スヲ得ンヤ』ト言ヒ、更ニ又『天地ノ間土有ツテ人其上ニ生ズ、因ツテ資ツテ養フ。其力アル者其地ヲ治ム。故ニ改姓受命スルモ民自ラ其恒疇ヲ有シ、王者ノ之ヲ授クルヲ待タザルナリ。唯人ハ王者ニ非ザレバ治マラズ、則チ宜シク其力ヲ以テ君子ヲ養フベシ』ト言ツテ居ル。猶彼ノ語ヲ以テ之ヲ説明スレバ、人ハ時ヲ以テ生ズル者デアル、其生ガ王者ノ世ニ當ラバ王者ノ治ヲ待ツテ其生ヲ遂グルコトヲ得ル。サレバ其力ニ應ジテ王者ニ事ヘ、之ヲ養ツテ行クベキモノデアル。然ルニ土ハ天地間ニ固有ノモノデアル。王者ガ變更シテモ山川ハ其舊ヲ改メズ、百穀卉木金石ヲ生ジテ人ヲ養フモノデアル。王者ガ土ニ待ツトイフコトハアルモ、土ガ王者ニ待ツ所ハナイノデアル。從ツテ王者ハ固ヨリ土地ヲ擅ニスルコトヲ得ナイ。サレバ孟子ガ井田ノ略ヲ言フニモ、皆民ニ取ルノ制ヲ謂ヒ、民ニ授クルトイフコトハ謂ハナイノデアルト言ツテ居ル。夫之ハ以上ノ議論ヲ本トシテ更ニ古ノ貢法助法ヲ説明シテ『貢ハ其地ノ產ヲ貢スルニ非ズ其人力ノ獲ル所ヲ貢スルナリ』トイヒ、又『井田ノ法ハ唯民ヲ役シ

ヲ耕ヲ助クルモノニテ、民治ムル所ノ地、君侵スコトヲ得ズ⁽⁸⁾』トイヒ、要スルニ『民ノ力ハ上ノ得テ用フル所ナルモ、民ノ田ハ上ノ得テ有スル所ニ非ザルナリ』⁽⁹⁾トイツテ居ル。即チ土地ノ自然ニ產出スル物ヲ租稅トシテ取ルコトハ出來ヌ、人民ノ之ニ加ヘタル勤勞ヲ租稅トシテ取ルベキモノデアルトスルノデアアル。今此等ノ說ノ是非ハ姑ク措キ、其土地ヲ以テ天空ト同ジク個人ノ私有ニ歸スベカラザルモノナリト言ヒ、又生産ニ就イテ勞働以外ノ要素ヲ眼中ニ置カザルガ如キ思想ノ認め得ラルルヲ稍珍トスルノデアアル。

三

夫之ガ農ヲ尊ブト同時ニ商ヲ抑フルヲ以テ貧富ヲ均シクスルノ一政策ト爲シタルコトハ、前節ニ於イテ既ニ少シク其端緒ヲ示シタル所デアアルガ、茲ニハ專ラ其抑商論ヲ紹介セウ。夫之ハ先ヅ富商橫暴ノ實狀ヲ述ベテ次ノ如ク言ツテ居ル。曰ハク『人主大臣モ猶且ツ意ヲ屈シテ賈人ニ下リ、以テ其得ント欲スル所ヲ遂ゲ、貧寒ノ士亦賈人ニ資ツテ以テ露濡ス。カクテ賈人ハ日ニ以テ尊榮ニシテ、其利ヲ罔シテ人ノ衣食ヲ削ル、陽ニ與ヘテ陰ニ取ル者ナリ。天下ノ利天子ノ權、柄ヲ倒ニシテ之ヲ授ク、天下奚ヲ恃ンデ貧シカラザルヲ得ンヤ。且其富ムヤ勞セズ、其用フルヤ恤マズ、相競ウテ以テ奢リ、天物ヲ珍シテ以テ糜爛ニ歸ス』¹⁰⁾。彼ガ商賈ヲ痛撃スル理由ハ、タダ其不勞所得ヲ得、慈悲心ニ乏シク、又多ク奢侈的消費ヲ爲ストイフガ爲メノミニ非ズシテ、實ニ商賈ハ其利ヲ罔シテ人ノ衣食ヲ削リ、陽ニ與ヘテ陰ニ取ルモノナルガ故ニ『賈人國ニ富ンデ國愈貧シクナル』¹¹⁾トイフノガ其主眼デアアル。サレバ彼ハ或ハ『賈人ノ富ムヤ人ヲ貧シクシテ以テ自ラ富ム者

10) 『讀通鑑論』卷一

11) 『讀通鑑論』卷一

ナリ』ト言ヒ、『又商賈ノ驕侈ハ民ヲ罔シテ之ヲ奪フモノナリ』ト言ヒ、商賈ノ富ムトイフコトハ同時ニ他人ノ所得ヲ奪ヒ、之ヲシテ貧ナラジムルモノナルコトヲ力ヲ籠メテ述ベテ居ル。斯クテ彼ガ漢ノ盜鑄錢令ヲ批評セル數言ハ此點ヲ更ニ精細ニ説明セルモノデアル。曰ハク『文帝盜鑄錢ノ令ヲ除キ民ヲシテ自ラ鑄ルコトヲ得シメタルハ、固ヨリ自ラハ民ヲ利スルト思ヘルナランモ、然モ能ク鑄ル者ハ貧民ニ非ズ、貧民ノ鑄ル能ハザルヤ明ナリ。サレバ姦商ノ者益以テ富ミ樸貧ノ者益以テ貧ナリ。カクテ姦商ハ其錢ヲ多クシテ以テ布帛菽穀等ヲ歛メ、以テ貧民ノ緩急ヲ持ス。貧者何ゾ日ニ以テ貧ナラザランヤ。貧者自ラ生産ニ從事シテ獲ル所幾モナシ。富者ハ隸傭ヲ多クスルモ、而モ十二其六七ヲ取ル。以テ鑄錢ノ利ニ視ブレバ相千萬倍シテ算ナシ。即チ或ハ力ヲ貧民ニ借ルモ、雇値ノ資亦實ニ僅少ノミ。是レ人ヲ驅ツテ豪右ノ役ニマカスモノナリ』ト。是レ富者ノ益富ム所以ノモノハ、第一富者ト貧者トハ其出發點ヲ異ニスルガ爲メニ自由競争ヲナスノ餘地ナク、有利ナル事業ハスベテ富者ノ獨占ニ歸スルガ爲メナルト、次ニ斯クノ如クシテ富者ハ需要多キ貨物ノ供給ヲ支配シテ貧民ノ膏血ヲ絞り、且又其雇傭セル勞働者ニ對シテハ十分ノ賃金ヲモ支給セザル等ノ原因ニヨルトスルモノニシテ、恰モ所謂自由競争ニ委スルト稱セラルル現代ノ資本家對生産者ノ社會ニ對シテ、其缺陷ヲ痛撃セル言デアルカノ如キ感ガスル。

然ラバカカル暴利ヲ罔スル商賈ヲ抑ヘテ貧富ノ懸隔ヲ防止セントセバ、果シテ如何ナル手段ヲ取ルベキカトイフニ、夫之ハ之ニ對シテハ、農業以外ノ主ナル生産業ハ個人ノ營利事業ニ委セズシテ、之ヲ國家ノ經營ニ移スベキモノナルコトヲ切論シテ居ル。即チ鑄錢事業ノ如キハ勿論、鹽

12) 『讀通鑑論』卷一

13) 同上

14) 『讀通鑑論』卷一

又ハ茶ノ如キ日常必要品ノ生産モスベテ之ヲ官業トスベシトノ意見デアツテ、唯酒バカリハ官業ト爲スベカラザルノミナラズ、風俗ヲ正ストイフ點ヨリ寧ロ禁止稅ノ意味ニ於イテ重稅ヲ課シ、其價ヲ貴クシテ遂ニ飲ムヲ得ザルニ至ラシムベキモノト爲シテ居ル。¹⁵⁾尤官業ニ就イテハ古來人民ノ自由ニ放任スベシトノ說可ナリ有力ナルガ、夫之ハ是レ名美ニシテ實ハ大ニ天下ヲ疲弊セシムルモノナリトシ、漢ノ鹽鐵論ニ對シテ其議論ヲ發シテ居ル。曰ハク『漢ノ時鹽鐵ノ論與ルヤ、文學賢良ハ競ウテ鹽ノ利ヲ割イテ民ニ歸セントシ、以テ寛大ノ政ト爲ヒリ。言是ニ似テ仁義ノ實ニ非ザルモノアリ、此類是ナリ。夫レ利ヲ割イテ民ニ與フトハ窮民ノ爲メニ言フナリ。即チ瀕海瀕池ノ民、苟モ其貧弱ナラバ亦惡ゾ能ク利ヲ擅ニ食ミテ以テ自ラ潤ハン。利スル所ノ者ハ豪民大賈ノミ。未ダ利ヲ割イテ之ヲ豪民大賈ニ授ケテ仁義トイフコトヲ聞カザルナリ』¹⁷⁾ト。而シテ彼ハ貨物輕重ノ權ヲ上ニ握ツテ居リサヘスレバ、タトヒ苛酷ナルコトアルモ猶制限アリ、一タビ之ヲ豪民大賈ニ任サバ、獨占ノ暴威ヲ逞シウシテ厚ク民ニ取ルモノ制限ナク、是レ寛大ノ名ニ徇ヒテ人民ヲ窮地ニ陷ルルモノデアルト爲シテ居ル。

總彙漢ノ時代ニハ富者ガ官吏ト爲ルコトヲ得ル制度ガアツテ、是レハ勿論衣食足ル者ハ榮華ヲ知ルノ意ニ出デタモノデアアルガ、富者ヲ排擠シテ假借セザル夫之ハ之ヲ嘲ツテ『富人ノ子ヲ擧ゲテ之ヲ官ニシ、以テ其家足ツテ食ルコト無カルベシト謂フハ、恰モ人ノ醜飲ヲ長レテ醉者ヲ延キテ宴ニ當タラシムルガ如キ者ナリ』ト言ツテ居ル。¹⁸⁾財産ノ多寡ヲ以テ參政權ヲ與フル標準ト爲スガ如キ制度モ、ヤハリ之ト同様ノ謗ヲ免レザルモノデアラウト思フ。

四

- 15) 『讀通鑑論』卷一、同卷四、同卷十三、『宋論』卷二
 16) 『宋論』卷二
 17) 『讀通鑑論』卷四
 18) 『讀通鑑論』卷一

今一ツ貧富ヲ平均セシムルモノトシテ夫之ノ探ツタ方法ハ物價調節策デアル。イカニ支那ニ於
イテ古來農ヲ重ンズルトイフモ、後世經濟組織ノヤヤ複雑トナリタル時代ノ農民ハ、農產物ノミ
ニ由ツテ其日常生活ヲ維持スルコトハ出來ナイ。必ズヤ穀帛ヲ賣リ貨幣ヲ得テ、他ノ貨物ヲ購求
スルノ必要ヲ生ズルノデアル。是ニ於イテカ商賈ハ其虛ニ乗ジテ農民ヲ苦シメ暴利ヲ食ルコトト
ナルノデアツテ、農民ガ勤苦シテ本業ヲ務ムレバ務ムル程、此點ニ於ケル農民ノ困窮ハ増シテ來
ルノデアル。夫之ハ之ヲ論ジテ、『天子ヲ佐ケ邦ヲ守ル者穀帛ヨリ大ナルハ莫シ。農夫ハ終歲耕シ
紅女ハ終宵紡ギ、四海ニ徧ク、萬年ヲ經テ、惟此レヲ是レ營ムナリ。然ルニ婚葬ノ用、醫藥ノ需
鹽茶ノ資、親故鄉隣ノ酬酢、多クハ穀帛ノミニテ用ヲ辦ズベキニ非ズ、必ズ金錢ヲ需メテ始メテ
用ヲ濟スモノアリ。是ニ於イテ農夫粟ヲ握リ布ヲ抱キ、經年ノ精髓ヲ罄シテ市ニ適ケバ、茲商雜
技之ヲ擯斥スルコト土芥ノ如シ。故ニ救粟水火ノ如クニシテ天下ノ不仁益甚シ』ト言ツテ居ル。
人ハ誰デモ水ト火トガ無クテハ生活ハ出來ナイガ、昏暮人ノ門戸ヲ叩イテ水火ヲ求ムルニ與ヘザ
ル者ハナイ。何故トナラバ其物至ツテ足ツテ居ルガ爲メデアル。聖人天下ヲ治ムルニ救粟アルコ
ト水火ノ如クナラシメタナラバ、民皆仁ニ興リ敢テ不道德ヲ爲スモノナキニ至ラントハ、孟子ノ
嘗テ述ベテ居ル所デアルガ、夫之ハ孟子ノ此言ヲ以テ通論ニ非ストスルモノデアル。然ラバ此ノ
如ク商賈ノ暴利ヲ食ルヲ抑ヘ、農民ヲ其困窮ヨリ救ハンニハ如何ニスベキカトイフニ、即チソコ
ニ物價調節ノ一策ガアルノデアル。

物價調節ノ政策ニモ種々アルガ、夫之ハ政府ガ徒ニ物價ノ高下ヲ強制スルガ如キ方法ヲ以テ、

最下策ト爲シ之ヲ取ラザルモノデアル。曰ハク『物價貴キニ當リテハ賤シカラシムルコト能ハズ上之ヲ禁ジテ貴カラザラシメントセバ、粟ヲ積ム者糴ヲ閉デテ愈其貴ヲ騰カラシム。物價賤シキニ當リテハ貴カラシムルコト能ハズ、上之ヲ禁ジテ賤シキコトナカラシメントセバ、金ヲ懷ク者買ハズ愈其賤シキヲ益ス。故ニ上ノ之ヲ禁ズルハ其禁ズルナキニ如カザルナリ』ト。²⁰⁾是レ不徹底ナル物價ノ鈞上ゲ策又ハ其引下ゲ策ハ、唯ニ其效果ナキノミナラズ却ツテ反對ノ結果ヲ齎スニ終ルベキヲ戒シメタモノデアル。此ニ由ツテ觀レバ一見彼ハ物價ヲ以テ常ニ自然ノ儘ニ放任スベキモノト爲スガ如ク解セラレザルニ非ザルモ、必シモ然ルニ非ズ。固ヨリ時宜ニ適セザル干涉政策ハ其取ラザル所ナルモ、己ムヲ得ザル場合ニ立到ラバ政府ニ於イテソレ等ノ貨物ヲ糴糶スルモ一方法デアルトシテ居ル。曰ハク『己ム無クンバ賤シキ時官之ヲ糴買シ、貴キニ至リテ官之ヲ糶賣スベシ、是レ常平ノ法ナリ。而モ常平ノ制ニテハ猶未ダ盡サザルモノアリ。官ノ糶買セシモノ必シモ凶年ヲ待ツテ糶賣スルヲ要セズ。以テ兵ニ餉シテ國用ニ供シ、民ノ本色ノ徵ヲ蠲キ、金錢ニ折ヘテ穀帛ノ賦ニ抵ツルコトスレバ、富室自ラ廩ヲ開キ箚ヲ發キ、以テ金錢ヲ歛ムルニ至リ、價自ラ平トナル』ト。²¹⁾尤彼ハ此法ヲ以テ權宜ノ法、偏ヲ救フベキモノト爲シ、物價調節ノ上策ニ非ズトナシテ居ル。然ラバ彼ガ上策ト爲ス所ノモノハ果シテ如何トイフニ、ソハ市場ニ於ケル流通貨幣ノ量ヲ伸縮シテ物價ヲ平準ニ歸セシメントスルモノデアル。曰ハク『王者ノ節宜ノ如キハ道アリ。則チ亦何ゾ穀帛ヲ土芥ニ視ブルニ至ランヤ。金錢上ニ歛メズシテ民間ニ散布シ、技巧市

20) 『廣通鑑論』卷九

21) 『廣通鑑論』卷九

ニ淫セズシテ遊民衣食ヲ急須ス。年豐ナリト雖、桑蠶盛ナリト雖、金錢賤シクシテ自ラ流通ヲ爲ス、亦何ゾ官ノ糴買ヲ待ツテ始メテ農夫紅女ヲシテ困マザラシムルガ如キコトヲ爲サンヤ。故ニ粟生ジ金死シ、而ル後ニ民仁ニ興ル。菽粟水火ノ如キハ何ゾ金錢ノ瓦礫ノ如クナルニ如カンヤ²²⁾ト。前ニモ述ベシ如ク此ハ専ラ商賈ノ農民ヲ苦シムルヲ救済センガ爲メノ調節策ナレバ、主トシテ穀帛ノ價ヲ鈞上グル方法ヲ講ジタルモノニテ、從ツテ穀帛ノ價ハイカニ高値ナルモ差支ナシトスルガ如キ語氣モ見ユレド、現ニ彼ハ他ノ場合ニ於イテ『粟貴キハ末ヲ傷リ、粟賤シキハ農ヲ傷ル。末ヲ傷ルト農ヲ傷ルト得失何ゾ擇バン』²³⁾ト言ツテ居リ、又此處ニテモ既ニ平價ト言ヒ節宣ト言フ以上、其本意ハ商賈ヲシテ不當ノ利益ヲ獲得セシメザル程度ニ物價ヲ平準セシメ、以テ貧富懸隔ノ發生原因ヲ除去セントスルニ過ギザルモノト見ナケレバナラス。カノ金錢ヲシテ瓦礫ノ如クナラシメントイフガ如キハ蓋其抑揚ニ過ギタルモノト見ルベキデアラウ。之ヲ要スルニ彼ハ通貨ノ伸縮ニヨツテ物價ノ平準ヲ持セシムルヲ以テ調節ノ上策ト爲シ、已ムヲ得ザル場合ノ權宜法トシテ政府ガ買上ゲ賣捌キヲナスヲ是認スルモノニテ、ソレ以外姑息ナル干涉政策ハスベテ無益有害ノモノトシテ之ヲ排斥スルノデアル。

夫之ハ又較價平準ノ機關ニシテ且凶荒救済ノ機關タル常平倉ノ制ヲ以テ、民ヲ利ニルノ善術ナリト爲シ之ヲ實揚シテ居ル。唯其制ノ能ク後世ニ行ハレ難キハ、之ヲ司ルニ其人ヲ得ズ、且立法ノ未ダ盡サザルモノアルガ爲メナリトシ、若シ²⁴⁾其地ニ困リ、其民ノ情ヲ酌ミ、其有司之ヲ制シ、郷ノ賢士大夫自ラ之ニ任シテ固ク之ヲ守フバ、百年ヲ經ルモ弊ナカルベキモノ²⁵⁾ト爲シ、且其制度ノ改良スベキ點ヲモ詳細ニ述ベテ居ル。

22) 『讀通鑑論』卷九

23) 『讀通鑑論』卷四

24) 『讀通鑑論』卷二

25) 『噩夢』

五

王夫之ノ分配政策ニ關スル意見ハ、以上ヲ以テ其主要ナルモノヲ大略述べ終ツタツモリデアル。猶分配政策以外ニ於イテ、彼ハ人口、田制、貨幣、貿易、水利、租税等ノ經濟問題ニ就キ論及セラルモノアレド、此等ノ論ニハ別ニ特色ト認ムベキモノモナシト思フガ故ニ、今ハ姑ク紹介ヲ見合スコトトスル。

サテ以上述べタル夫之ノ經濟政策ニ關スル思想ヲ通觀スルニ、彼ハ主トシテ干涉主義ヲ持スルモノノ如ク見ユルノデアルガ、又ソレト同時ニ一部分ニ於イテ放任主義ヲモ取ルモノナルコトヲ認ムルコトガ出來ル。然リ彼ハ實ニ干涉主義ト放任主義トヲ調和セント力メタルモノト見ルノガ正當デアラウ。併シナガラ茲ニ特ニ注意スヘキハ、彼ノ元來ノ出發點ハ却ツテ干涉主義ニアラズシテ寧ロ放任主義ニアルトイフコトデアル。ソレハ彼ノ書中到處ニ其端倪ヲ示シテ居ル所デアルガ、今其一二例ヲ舉グレバ、例ヘバ『人ハ未ダ自ラ其生ヲ謀ラザル者アラザルナリ。上ノ之ヲ謀ルハ自ラ之ヲ謀ルニ如カズ、上爲メニ之ヲ謀レバ其自ラ謀ルノ心ヲ弛クシテ而ル後生計愈蹙ル故ニ人ノ自ラ給スルナキヲ憂フル勿レ。其終ニ給スベカラザルニ至ラバ、必ズ圖ヲ改メテ生クル所以ヲ求ムベク、固ヨリ自ラ斃ルルノ理ナシ』²⁶ト言ヒ、或ハ『三代ノ制ハ民ヲ裕ニシテ自ラ計ヲ爲サシムルモノナリ、上之ヲ計ルヲ要セズ。上之ヲ計ラバ民視テ以テ法ト爲シ、則チ憚リテ行フコトヲ樂シマス』²⁷ト言ツテ居ルガ如キハ即チソレデアル。此等ノ語ニ由ツテ觀レバ彼ハ干涉主義

26) 『讀通鑑論』卷十二

27) 『讀通鑑論』卷二

ヲ排斥シテ全然放任主義ヲ是認スルモノデアルカノ如ク見ユルノデアル。此點ハ實ニ彼ノ出發點ト認ムベキモノデアラウト思フ。然ルニ道ヲ以テ天下ヲ治メタル三代ノ古ハイザ知ラズ、後世ニ在リテハ放任主義ノ弊害續出シテ收拾スベカラザルコト歴史ノ明カニ示ス所デアル。ソコデ泥古ノ弊ニ拘ハレザル彼ハ『法以テ天下ヲ治ムベカラズ、而モ無法ニ至ツテハ民以テ其生ヲ有ツナシ』²⁸⁾ト言ヒ、或ハ『民猶法有ルコトヲ知ツテ之ニ遵ハバ、則チ其害ヲ蒙ルト雖、而モ相習ウテ以テ安ンゼン』²⁹⁾ト言ヒ、後世干涉主義ヲ取ルノ已ムヲ得ザル所以ヲ説キ出シ、斯クテ放任主義ノ外ニ干涉主義ヲモ併セ取り、遂ニ或點ニテハ全然干涉主義ニ立脚スルカト思ハルル如キ傾向ヲ生ジタモノノヤウデアル。彼ノ説ガ處々ニ矛盾ヲ有シ居ルガ如ク見ユルハ、蓋此兩主義ヲ調和セントシテ能ク調和シ得ザルニ由ルニハ非ザルカ。從ツテ其説ク所固コリ精練セラレタルモノト謂フヲ得ザルモ、タダ儒家ノ多クガ全ク干涉主義ニ立脚スルニ反シ、儒家ニシテ歴史家タル彼ガ放任主義ヨリ出發シ、而モ其放任主義ヨリ漸次干涉主義ニ傾キツツアルトイフ點ニ於イテ、聊カ興味ヲ引クモノガアラウカト思フノデアル。(完)

28) 『讀通鑑論』卷十五

29) 同 上